

旭川文学資料館 ミニ展示

日本漫画家協会賞を受賞！！ 旭川ゆかりの漫画家

山村輝夫展



北海道浜頓別町のベニヤ原生花園にて
山村輝夫 62歳 (2005年)

2022年 4/12(火) ~ 6/30(木)



会場 旭川文学資料館 ミニ展示室
(旭川市常磐公園 常磐館内)

開館時間 午前10時～午後4時

休館日 日・月・祝祭日 <入館無料>

主催 旭川文学資料館

【お問い合わせ先】 「(NPO法人) 旭川文学資料友の会」

〒070-0044 旭川市常磐公園旭川市常磐館内

TEL・FAX (0166) 22-3334

※ご来館の際は、マスクの着用、手指の消毒等の感染症予防にご協力をお願いいたします。
また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、延期や中止となる場合がありますのでご了承ください。

山村 輝夫 (やまむら てるお)

【1942(昭和17)年12月13日～2020(令和2)年9月11日】

1942(昭和17)年旭川市生れ。旭川北高、武蔵野美術大学卒業。
東京にて杉浦幸雄氏に師事し、漫画家を志すが家業の酒販業を継ぐため旭川に帰る。故郷の自然、人情、歴史などに自分の世界を見出し、再び筆をとる。

1977(昭和51)年、漫画私本『北に住みて想う日々あれば』で、第6回日本漫画家協会賞の大賞を受賞。

1978(昭和52)年～1982(昭和57)年、月刊誌『月刊ダン』(北海道新聞社刊)の表紙絵を描く。

1990(平成2)年、画文集『遠い日の村のうた』で第39回小学館絵画賞受賞。

その他の絵本に、開拓絵物語『原野に星は光る』、漫画私本『オサラッペ山老骨記』、『キリちゃん』、『天と地の家族』など。



フキ採りをする山村輝夫
北海道紋別郡遠軽町奥白滝にて
2009(平成21)年6月
この場所へは毎年訪れ、作品の
インスピレーションをえていた

山村幾代子さま所蔵、百井昌男さま寄贈の資料を中心に、「山村輝夫の世界」を、著作、絵画、写真、新聞記事等で展示紹介いたします



約5年間描き続けた「月刊ダン」の表紙絵も展示します



山村輝夫作 水彩画「夕焼空の下の家族」
2020(令和2). 6. 30

旭川文学資料館 《Asahikawa Museum of Literature》



交通(バス)のご案内 「常磐公園前」下車

- 旭川電気軌道バス(所要時間8分)
駅前バスタッチ発 4番乗場: 5・6・81番、1条8丁目乗場: 14番
- 道北バス(所要時間8分)
駅前バスタッチ発 3番乗場: 28・29
宮下通駅前 22・23番乗場: 10・14・15・114・530番
※旭川駅前から、徒歩で約25分です。

〒070-0044 北海道旭川市常磐公園1971-5
旭川市常磐館内 TEL/FAX(0166)22-3334

- 開館時間/10:00～16:00
- 休館日/毎週日・月曜日・祝日・年末年始
- 入館料/無料
- 駐車場/有

当館のホームページもご覧ください。
<http://www.abs-tomonokai.jp>



特定非営利活動法人 旭川文学資料友の会が運営しています。
2001年に活動を開始、2009(平21)年5月17日に開館しました。

☆ 旭川市 市制施行 100年 ☆